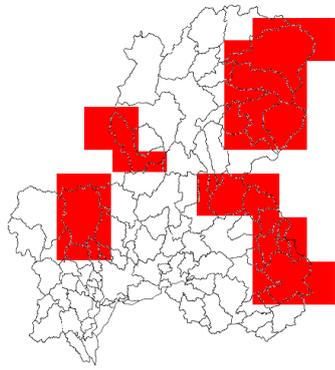


オオヤマレンゲ	<i>Magnolia sieboldii</i> K.Koch subsp. japonica K.Ueda	準絶滅危惧
		モクレン科
選定理由	県内での個体数は極めて少ない。	写真(岐阜大学教育学部標本室) 標本 
形態の特徴	葉は互生し倒卵形で全縁、先端は鋭く突出し、基部は鈍形あるいは円形。葉の長さ6から18cm、幅5から12cm。表面は平滑でまばらに毛があり裏面は白色を帯び全面に毛がある。花期は6月中旬から7月下旬。	
生態的特徴	標高700mから1600mの山地帯に見られる。樹高4から5mになる落葉低木から高木。幹は時に斜上し屈曲する。	
分布状況	本州の関東から西、四国、九州に分布する。岐阜県では飛騨地方の東部、美濃地方の東部と西部に見られる。	
減少要因	山岳地帯の開発などで自生地が縮小された可能性がある。	
保全対策	山岳地帯での道路建設の際には検討を要する。	
特記事項		
参考文献	岐阜県植物誌	

文責:野村勝重